

備えよう！

救急医療情報キット

問合せ 健康福祉課福祉・高齢者グループ

☎74・3001

洞爺湖町も高齢者の割合が3割を超え、独居世帯も増加するなど、不安を抱えながら生活をしている方も少なくありません。町では、そんな不安を解消しようと、昨年の11月15日から「救急医療情報キット」の希望者への配布を始めています。

さきがけて実施している洞爺湖温泉1区自治会の取組みを紹介しながら、同キットの重要性を考えてみます。

突然具合が悪くなり、救急車を呼んだ場合、本人なら、痛みなどで救急隊員にうまく説明できないだろうし、家族・知人であるなら、患者のかかりつけの病院や既往症などは承知しておらず、同様に的確な説明をすることができない場合が多いのではないのでしょうか。

そういう救急時において役立つのが、「救急医療情報キット」です。

これは、丸い透明の筒に、氏名住所をはじめ、かかりつけの病院や既往症、薬の処方箋など、本人についての情報を入れておいて、見やすいところに置いてお

くものです。出動した救急隊員は、キットの中にある情報を手にするだけで、即座に判断し、迅速に対処することが可能になります。

洞爺湖温泉1区自治会では、住みよい地域をつくろうと「ひとりの不幸も見逃さない住みよい町づくり」運動を展開し、同キットを配布しました。

配置している会員の一人は、「独居や病気を抱える高齢者、重い障がい者などは、自分で説明することがむずかしいので、このキットがあればそれだけで救急隊の人が判断できる」とキットの効果について話します。

実際に、キットの中身をみせてもらうと、①名前、住所②かかりつけ病院、担当医、現在の病名③既往症④緊急連絡先⑤健康保険証の写し⑥病院カードの写し⑦薬の処方箋などの情報が入っていました。

「一人暮らしにかかわらず、夫婦でもお互いに病気のことはわからない場合があるので、キットは大切」と言います。

玄関内側には、表示ステッカーを張り、キットは、冷蔵庫の中でなく、わかり易いし、すぐに取り出せるという理由で、外にマグネットで留めているそうです。



組合消防組
消防署
消防課長
洞爺湖
警防
藤川修一さん

洞爺湖町も、高齢化が進み、一人暮らしのお年寄りなども増えてきています。安心して日常生活をおくる上で、救急医療情報キットは非常に役に立ちます。

体調不良などで救急車を要請した場合、家族や知人、友人などが、患者自身の持病の有無、かかりつけの病院など細かな情報を知っているとは限りません。

このキットがあれば、救急隊が見て、正確な情報を知ること、病院への搬送を迅速、的確にできます。

実際の現場でも「適切な対応ができた」などの報告も受けています。

救急医療情報キットを配備し、不安のない日常生活をおくりたいものです。



救急医療情報キット

救急医療情報キットを希望の方へ

■対象者

- ①65歳以上で、一人暮らし又は老人夫婦のみの世帯の方
- ②障がいのある一人暮らしの方

請書を健康福祉課、温泉支所、洞爺総合支所に提出ください。申請書は、各窓口にあります。わからないことがあれば、詳しく説明しますので、まずは電話で問合せください。

- ③突発的に生命に関わる危険な症状の有する方
- ④そのほか町長が適当と認める方

■交付の申請
交付を希望する方は、申